

平成24年9月28日

豊田市議会議長 梅村憲夫様

産業建設委員会  
委員長 鈴木章



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日程 平成24年7月24日(火)～26日(木)
- 2 派遣先及び内容  
24日(火) …愛媛県松山市／官民協働によるまちづくり  
25日(水) …愛媛県西条市／6次産業  
26日(木) …岡山県倉敷市／企業誘致施策
- 3 派遣委員  
委員長 鈴木章  
副委員長 加藤和男  
委員 光岡保之 八木哲也 山内健二  
大村義則 杉浦昇 山野辺秋夫  
山田主成
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 成瀬剛史、有働由佳

視察報告書【1】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成24年7月24日(火) 午後 3時00分 ~ 午後 4時30分
視察先・概要	愛媛県松山市 人口：517,231人 面積：429.05 km <sup>2</sup>
視察内容	中心市街地活性化の取組
選定理由	松山市は『坂の上の雲』まちづくりとして、小説ゆかりの地域資源を市民みんなで磨き上げ、結びつけることで、まち全体を屋根のない博物館に見たて、まちの魅力をアップさせている。このまちづくりは行政主導ではなく、地域住民が主体となって進められることが重要だと考え様々な支援が行われており、本市のまちづくりの参考になると考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、北地区市街地再開発事業やエコフルタウンの整備等を総合的にマネジメントし、第2期中心市街地活性化基本計画の策定をする。これまで実施してきた事業効果を検証し、官事業のみならず民事業を計画的に組み込み、都市機能とまちの魅力向上を図る戦略的な計画づくりを進める。
視察概要	松山市役所において、総合政策部坂の上の雲まちづくり担当部長 付副主幹 田中健太郎氏、坂の上の雲まちづくりチーム 矢野貴之氏から、『中心市街地活性化の取組』と『松山市商店街振興施策』について説明を受けた。
評価とその理由	全国的に『中心市街地活性化』に成功した事例が少ない中で、四国地方随一の人口と商業集積率を誇る松山市の取組は、同じく中心市街地活性化に苦慮している豊田市にとって、厳しい環境下での参考となりうる。 周辺人口減少時代に備えた取組事例である。
本市に反映できること	松山市では『アーケード街の再活性化』と『観光資源を生かした商業立地』との融合を目指し、地域資源を生かした中心市街地活性化策を模索している。 豊田市でも、周辺に展開する大規模小売店舗に対抗するためには、中心市街地の『半アーケード化』を検討するべきだと思う。
その他 (意見・課題など)	全国の中心市街地が疲弊する中で、成功事例だけでなく『失敗事例』も反面教師としての参考にするために視察を行うべきである。

視察報告書【2】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成24年7月25日(水) 午後 1時30分 ~ 午後 3時00分
視察先・概要	愛媛県西条市 人口:112,091人 面積:509.07 km <sup>2</sup>
視察内容	6次産業
選定理由	西条市では平成14年度の施政方針で、“水の郷、食の里”、西条市の力をキャッチフレーズに掲げ、食料産業拠点を目指して6次産業の創出を提唱した。平成23年12月には「西条農業革新都市総合特区」に選定され生産面から加工・流通までの流れが一つの地方都市の中に存在する「総合6次産業都市」の実現を目指しており、本市の農商工連携・6次産業化による地域産業の振興の参考になると考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、平成23年度に産業部農商工連携プロジェクトチームが「農商工連携・6次産業化推進プログラム」を作成し、今年度、それに基づき「地域ブランドづくり」を段階的に進める予定。
視察概要	西条市役所において、企画情報部農業革新都市推進室 室長 佐伯寛典氏、係長 大久保武氏から、『6次産業化』『西条農業革新都市総合特区』の概要と、『サンライズファーム西条』の取組について説明を受けた。
評価とその理由	西条市では『6次産業化』の取組を、市の一施策としてだけではなく、市長自らがリードして具現化した『産業特区制度』であり、自治体と地域だけでなく住友化学という『一部上場企業』を誘致して取組んでいるところが興味深い。 『サンライズファーム西条』の6次産業化は始まったばかりであるが、採算性に優れた農業を具現化できるか今後の取組に注目したい。
本市に反映できること	豊田市の6次産業への取組は、行政主導で、農業者・JA・商工団体との連携がまだまだ遅れている。 西条市のように民間企業を導入することで、生産→加工→流通の6次産業としてのシステム確立する必要がある。 特に、6次産業化成功への鍵は、『加工品のブランド化』であり、民間企業のノウハウを積極的に取り入れる必要がある。
その他 (意見・課題など)	

視察報告書【3】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成24年7月26日(木) 午前10時00分～午前11時30分
視察先・概要	岡山県倉敷市 人口：475,513人 面積：354.72 km <sup>2</sup>
視察内容	企業誘致
選定理由	倉敷市は水島港振興室の設置や設備投資促進奨励金など「産業都市くらしきの再生」をテーマに事業を進めてきた。「立地企業支援体制の強化」「水島コンビナート地域など既存企業の競争力強化に繋がる支援策の実施」「県と連携した企業立地策の展開」が評価され「企業立地ががんばる市町村20選」に選ばれているなど、本市の今後の取組の参考になると考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、ものづくり基盤の強化を図り、バランスのとれた産業構造構築するため、産業用地（西広瀬工業団地）の積極的なPRと効果的な民間開発支援により、企業立地を促進する取組を進めていく予定。
視察概要	倉敷市役所において、文化産業局商工労働部次長 小西康夫氏、商工課主幹 藤原博之氏から、『企業誘致促進奨励金・企業立地促進奨励金』『企業誘致の効果』などについて説明を受けた。
評価とその理由	企業誘致には『交通アクセス』が確立されていることが最も大切である。倉敷市は、山陽地方の中心部に位置し、陸運・海運ともに整備ができています。 さらには、岡山県と連携した企業立地策が優れており、企業進出に見合う補助金のシステムが確立されている。
本市に反映できること	豊田市では、現在、西広瀬工業団地への企業誘致に大変苦慮しているが、倉敷市では補助金制度等に加えて、工業団地の売り出し価格を、海に面したコンビナート地区で坪単価約6万円、山間部の工業団地ではさらに安く、坪単価約4万2千円と低く抑えている。 対する豊田市では、西広瀬工業団地の売り出し価格は、坪単価約10万円と高額に設定されているように感じる。今後は、低価格化も含めて検討する余地があると思う
その他 (意見・課題など)	

